

電気電子工学委員会(第 25 期・第4回)

議事要旨

I. 日時: 令和5年9月 15 日(金)9:00~10:10

II. 会場: 遠隔会議(主催会場: 東京大学工学系研究科)

III. 出席者: 中野委員長、中川副委員長、三瓶幹事、宮地委員、浅間委員、大橋幹事

IV. 議事:

(1) 前回議事要旨の確認

資料2に基づき、中野委員長より第2回電気電子工学委員会議事録の確認が行われた。

(2) 分科会、小委員会等の活動報告

資料4に基づき、各分科会の活動報告がなされた。

「制御・パワー工学分科会」中川委員長から、今期の活動報告がなされた。カーボンニュートラルを推進するという政府の方針にのっとり、電気工学の観点から役割を検討してきた。2023年3月15日には、電気学会・自動車技術会と連携し、一般公開シンポジウム「カーボンニュートラルの時代に『電気』が果たす役割」を開催したことを報告された。

「デバイス・電子機器工学分科会」大橋委員長から、今期の活動報告がなされた。電気電子、特にデバイス分野の今後のあり方について小委員会も設置し議論を続け、2023年3月17日に応用物理学会春季学術講演会にてシンポジウム「日本半導体復活に貢献できる人材育成と産学連携」を開催したことを報告された。

「通信・電子システム分科会」三瓶委員長から、今期の活動報告がなされた。通信・電子システム分野の課題と将来の方向性を検討し、見解として「情報通信分野を中心に据えた産業化追求型(価値獲得型)研究開発プロジェクトの推進」を発出したことが報告された。

「URSI 分科会」について中野委員長から今期の活動報告がなされた。「2022年URSI日本電波科学会議」、
「URSI日本生誕100周年記念シンポジウム」の開催が実施されたことが報告された。

「IFAC 分科会」について浅間委員から今期の活動報告がなされた。2023年7月9日~14日の会期で、IFAC World Congress 2023をパシフィコ横浜で開催され、天皇皇后両陛下の御臨席を賜ったことも報告された。

(3) 25期分科会活動のまとめ

資料5に基づき、中野委員長より分科会活動のまとめ案を説明された。電気電子工学委員会では、多岐分野にわたるため、5つの分科会での活動を実施し、シンポジウム・意思の表出を行ってきたことをまとめられた。

(4) 26期電気電子工学委員会について

10月2日より第189回総会が行われ、26期の活動が開始する。26期の電気電子工学委員会のメンバー

を確認するとともに、第一回の電気電子工学委員会の世話人を中川副委員長に委任することを決定した。

(5) 26 期分科会活動について

26 期の電気電子工学委員会分科会は、今期と同様、「制御・パワー工学分科会」「デバイス・電子機器工学分科会」「通信・電子システム分科会」「URSI 分科会」「IFAC 分科会」を設置する方針とした。ただし、「IFAC 分科会」は、これまでの電気電子工学委員会、総合工学委員会に加えて、機械工学委員会が合同親委員会となることが決まっており、26 期は、電気電子工学委員会、機械工学委員会、どちらのリストに加えるべきかは確認することとした。

(6) 26 期への申し送り

三瓶幹事から、今回「通信・電子システム分科会」から見解を発出した経緯を踏まえて、やはり委員の任期などを考えると、6年単位での活動にならざるを得ない指摘があった。また、25 期から、意思の表出に、「見解」が加わったことについて、「見解」は、第3部部会での了承を経て、発出することができることから、専門的な技術見解を述べるという特徴があり、今後も「見解」を活用されることを申し送ることとした。

(7) その他

特になし。

配布資料:

- 資料 1 電気電子工学委員会名簿
- 資料 2 電気電子工学委員会(25 期・2 回)議事要旨
- 資料 3 電気電子工学委員会(25 期・4 回)議事次第
- 資料 4 分科会活動報告関連資料
- 資料 5 25 期分科会活動のまとめ
- 資料 6 26 期第 1 回委員会議事次第案他
- 資料 7 26 期分科会案

以上